

放射線科研修プログラム

指 導 医 山下 昌次 水野 まゆみ

研 修 期 間 基 本 コ ー ス 選 択 科 目 1 ヶ月から9 ヶ月
小児科・産婦人科コース
産 婦 人 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月
小 児 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月

I. プログラムの目的

放射線科学全般にわたる基礎研修ができるだけ達成され得るように考慮し、診断・治療・核医学の基礎を学び、指導医のもとに実習を行う。

II. プログラム指導者と協力施設

診療科責任者

- ・ 山下 昌次 : 放射線治療・核医学検査
(日本医学放射線学会専門医)
(日本核医学会認定医)
(放射線腫瘍学認定医)

協力施設

- ・ 慶應義塾大学病院

III. 研修内容

1) 放射線治療

1. 放射線物理学、放射線生物学の基本
放射線治療の原理
放射線の線質、線量の分布、照射技術
悪性腫瘍の生物学的性質
2. 腫瘍学の基本
各種悪性腫瘍の進展形式や予後
放射線治療の役割
3. 腫瘍の広がり診断
患者さんの診察（問診、視診、触診、聴打診など）
各種画像診断の適応と読影
TNM分類、病期分類

4. 放射線治療の適応と副作用
外照射、組織内照射、腔内照射の適応と治療計画
術前、術後照射の適応
5. 化学療法 of 適応と副作用
各種化学療法剤の特徴と使用上の注意
副作用の防止と対処法
6. 患者管理
全身状態の評価
コミュニケーション、説明、指導など面接の仕方
他科との協力

2) 核医学

1. 放射性同位元素の性質
物理学的、生理学的性質
放射性医薬品の特徴と体内動態
2. 核医学検査の適応と診断
原理、適応、診断方法
他の検査結果と合わせた総合診断
3. 核医学検査技術
撮影機器の種類と特徴 (SPECT 等)
核医学データ処理の実際
4. 骨塩定量
原理、適応、診断
5. 放射性物質の安全な取り扱い
放射線防護
安全管理体制
事故時の対応

3) 放射線診断

1. 超音波検査
腹部実質臓器を中心とする超音波検査 (産科および循環器超音波検査を除く) の習得
2. 血管造影検査 (含 interventional radiology)
診断造影、TAE, PTA 等の見学

IV. 勤務時間など

勤務時間は午前8時30分から午後5時までであるが、診断業務ではその後写真の読影時間分延長される。病棟勤務では患者の重症度によって延長される。また、カンファレンス等で変更される場合がある。

V. 教育に関連する行事

1) 標準的な週間スケジュール

1. 放射線治療・核医学

	8	9	10	11	12	1	2	3	5	6
月	病棟勤務 核医学検査			外来			外来 リニアック勤務			
火	病棟勤務 核医学検査			外来			外来 リニアック勤務			
水	病棟勤務 核医学検査			外来			外来 リニアック勤務			
木	病棟勤務 核医学検査			外来			外来 リニアック勤務			
金	病棟勤務 核医学検査			外来			外来 リニアック勤務			

2. 放射線診断

	8	9	10	11	12	1	2	3	5	6
月	モニグ [※] カンファレンス		超音波検査				超音波検査			
火			超音波検査				血管造影検査の 見学			
水			超音波検査				超音波検査			
木			超音波検査				血管双栄検査の 見学			
金			超音波検査				超音波検査			

3. 定期的に行われる教育関連行事

<院内>

合同カンファレンス；第2木曜午後7時～8時

<院外>

放射線診療研究会（核医学）；第3月曜日午後6時～8時

放射線治療談話会；第3水曜日午後6時～8時

東京レントゲンカンファレンス；第4木曜日午後6時30分～8時30分

VI. 指導体制

1. 放射線治療

外来：外来診療を見学した治療方針、放射線照射計画などを、
担当医より指導を受ける。

病棟：患者を医長とともに研修医が受け持ち、診断、治療、
患者管理などの実際を経験する。

2. 核医学

指導医と研修医のマンツーマン体制で、アイソトープの投与から
診断までの指導を受ける。

3. 放射線診断

超音波検査レポートを作成する。レポートは指導医がチェックする。

VII. 評価

評価はE P O Cを使用し、自己評価及び指導医の評価を行う。